

中国の新幹線

先日、中国が自慢する時速 350Km の新幹線に乗ってきました。但し、2 年前の温州の衝突脱線事故以来正確には分かりませんが速度は相当下げています。

この新幹線が特に有名になったのは、温州での事故で証拠隠滅の為か分かりませんが満足な原因究明の検証も済まないうちに脱線した列車を地中に埋め始め社会問題となり大きな話題をさらった新幹線です。

中国の新幹線は、外観は日本の新幹線と同様で格好良く駅も全て新設され立派な設備で従来の中国の長距離列車とは全く異なる段違いの豪華さです。

私は、始発ではなく途中の駅から乗車しましたが改札口からプラットフォームに入れるのは出発の 10 分前で列車が到着すると改札は閉じられチケットを持ってない人は入れないようになっています。又、チケットには名前と身分証明書番号、外国人はパスポート番号が印刷されていて本人以外は使用できません。

上海の虹橋から浙江省の台州市までの 4 時間程の行程で乗車料金は片道 140 元 (2 千円強) と私には安く感じられますが中国人にとって決して安い運賃ではありません。

乗り心地は、中国の在来線に比べれば快適ですが日本の新幹線と比べると快適性、横揺れ、サービスの面で落ちると思います。又、途中の一部は在来線のレールを使用して走るので新幹線スピードを 100Km/時程度にスピードを落として走る事で爽快感に欠けます。

車内の座席は日本の新幹線と同じような 1 列に 3 座席と 2 座席で真ん中に通路があります。新幹線の車両は 20 車両近くありますがその中の 3 車両程度は寝台座席で 1 コンパートメントに 2 段の寝台ベッドが向かい合っており合計 4 人分の寝台があります。

しかし、昼間は下段の寝台のベッドに 3 名ずつが向かい合い座り 6 名定員となり照明、温度調節が付いていて壁にはテレビもあります。上段の寝台ベッドで寝ても良いのですが通常は荷物置きとなっています。

新幹線のキャビンアテンダントは、若くて背が高く赤いスーツを着た綺麗な女性ばかりですが、乗客に接する際は笑顔も無くサービス精神には欠けていて中国の飛行機のキャビンアテンダントと全く同じで無愛想に感じます。

トイレは、和式で洗面所が一体で少し狭いので洗面所で手を洗った時に床に水がこぼれ水浸しになっています。トイレには、中国では珍しくトイレトペーパーが 1 ロールだけありましたが使い切りで補充はありません。

又、座席チケットには何号車の何番と指定された所に座るのが普通ですが中国人はこの様な概念が少なく自分の席で無くとも空いている席で気に入れば適当に座る人が多くいます。よって、次の駅から乗車した人は自分の席に他人が座っていても何も文句も言わず適当に

空いている席を探し黙って座っています。

帰ってから通訳の人にこの件を話すと中国では当たり前なことと普通の中国人は当然その様にするので違和感はないと言われ驚きました。

食堂車もありますが、3~4種類程度の弁当と飲み物があり本格的な食事は出ませんが、弁当は暖めてあり40元(600円)と中国では高価です。

中国の在来列車での食事といえば、給湯室でお湯を入れるカップラーメンが主流ですから新幹線の弁当は中国の人にとっては豪華に感じると思います。但し、肝心の弁当の中身はあまり美味しくなく日本の弁当の味を知っている私にすればあまり美味しくありませんでした。

中国の新幹線のもう一つの大きな自慢は、営業運転では無理ですが試運転では時速480Kmを超える世界最高スピード記録を持っています。

この様に中国の新幹線は、中国の在来線の列車と比べれば設備もスタイルもスピードも全てが格段に良くなっているので中国人にとっては自慢の新幹線であることは間違い無いと思います。しかし、日本の新幹線に比べると最高スピードだけは中国の方が勝っているものの乗客に対しての安全性、乗り心地、快適性、乗務員のサービス等の顧客に与える満足感はまだまだ疎かになっていて見劣りするというのが実情だと思います。

中野実